

RNA スプライシング異常による SLE 発症機序の解明と新規治療法の開発

分担研究者 江口 勝美 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座 教授
研究協力者 蒲池 誠 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座 客員研究員

研究要旨 ヒトでは75%以上の遺伝子が選択的スプライシングを受けており、RNA スプライシングは遺伝子発現の post-transcriptional な fine tuning 機序として脚光を浴びつつある。RNA スプライシングによる post-transcriptional な遺伝子発現制御は pre-mRNA のスプライス部位とスプライシング因子(SR 蛋白質)の結合に依存する。アポトーシス関連遺伝子には複数のドミナントネガティブ型のスプライスヴァリエント (SV) が存在し、その発現が変化することによりアポトーシス誘導性/抵抗性のバランスが変化すると考えられている。アポトーシス関連遺伝子の RNA スプライシング制御は主にスプライシング制御因子(SR 蛋白質)のリン酸化レベルの調節に依存する。SR 蛋白質の kinase については SR protein kinase-1(SRPK-1)や CLK(Cdc-2 like kinase)等の報告が存在するが、これら kinase の活性化に関与する細胞内シグナル伝達経路や kinase に antagonize する phosphatase の活性化については殆ど解明されていない。また細胞内シグナル伝達経路の報告も細胞株についてでありヒト末梢血単核球(PBMC)での報告例は皆無である。Caspase は機能上アポトーシス誘導性 caspase と炎症性 caspase に分類される。前者の中でも caspase-8 の酵素活性 (limited activation の誘導) は免疫制御に関与することが明らかとなっている。caspase-8 の RNA スプライシング変化はアポトーシス誘導閾値を変化させるだけでなく自己免疫疾患の疾患活動性に相関したリンパ球活性化に関与する可能性が考えられた。そこで RNA スプライシングに着目した免疫制御による新規治療法の模索を意図して、本研究では PBMC を用いて 1) アポトーシス関連遺伝子の RNA スプライシング制御に関与する主要なシグナル伝達経路の解明, 2) アポトーシス関連遺伝子の RNA スプライシング変化を誘導する外部刺激の検討, 3) SLE(全身性エリテマトーデス)の疾患活動性に相関する RNA スプライシング変化の検討, 4) 免疫抑制剤による RNA スプライシング制御の検討を行った。その結果、1) caspase-2, caspase-8, Fas, TRAIL のドミナントネガティブ型のスプライスヴァリエント (SV) は phosphatase の活性化により誘導される、2) サイトカイン, Toll-like receptor (TLR) 刺激は caspase-8 の SV の発現を低下させて limited activation を誘導する、3) active な SLE では caspase-8 の SV 発現が低下しており、免疫抑制治療は疾患活動性を低下させて caspase-8 の SV 発現を回復させる、4) 免疫抑制剤のミゾリピン(MZR)は細胞周期制御因子(CDKs/cyclin 複合体)の発現を変化させて SR 蛋白質のリン酸化レベルを変えて SV 発現を回復させることが明らかとなった。TLR 刺激での caspase-8 の RNA スプライシング変化と limited activation の誘導には細胞間相互作用による新たなリンパ球活性化機序が存在する可能性が考えられ、これについて今後さらなる検討が必要と思われた。

A. 研究目的

SR 蛋白質のリン酸化制御には SR 蛋白質の kinase と phosphatase が関与すると報告されているがこれらの制御には未知の部分が多く残されている。そこで本研究では段階的に検討を実施した。

検討 1) 主要なシグナル伝達経路の推定。

キーポイント: 各種細胞株や PBMC を用いてアポトーシス誘導刺激下でドミナントネガティブ型のスプライスヴァリエント (SV) が蛋白質発現非依存性に誘導されるがどうかを検討した。次に、pharmacological

inhibitionによりその誘導に関与する主要なシグナル伝達経路の推定を行った。

検討2) 着目するアポトーシス関連遺伝子の決定。
キーポイント: 検討1での外部刺激により誘導されるRNA スプライシング変化のうちSLEなどの疾患活動性と相関して変化するアポトーシス関連遺伝子の検索を行った。

検討3) PBMC (ヒト末梢血単核球)でのRNA スプライシング変化の検討。
キーポイント: SLEではTCRのゼータ鎖の発現が低下している、IL-2の産生が亢進していない、など通常のリンパ球活性化とは異なる病態を示しており、TCR以外からの活性化刺激が示唆されている。そこでPBMCの各細胞コンポーネント間での相互作用を介した活性化刺激によるRNA スプライシング変化の検討を行った。

検討4) 免疫抑制剤(ミゾリビン/MZR)によるcaspase-8のRNA スプライシング制御の検討。
キーポイント: SR蛋白質のリン酸化制御はSR蛋白質特異的なkinaseに依存しているが、そのkinaseに細胞周期制御因子(CDKs/cyclin複合体)の一部が含まれることに注目が集まりつつある。そこでCDKs/cyclin複合体制御作用があると思われるMZR(ミゾリビン)を用いてcaspase-8のRNA スプライシング制御を試みた。

B. 研究方法

検討1) 主要なシグナル伝達経路の推定

1-1) U937、Jurkat細胞株及びPBMCを培養し、様々な刺激(エトポシド、スタウロスポリン、シクロヘキサミド)で上記細胞にアポトーシスを誘導した後、RNAを抽出した。アポトーシス関連蛋白質(caspase-2, caspase-8, Fas, TRAIL)のRNA スプライシング変化をRT-PCRで検討した。1-2) kinase阻害剤、phosphatase阻害剤を用いたchemical inhibitionにより選択的スプライシングに関与するシグナル伝達経路の検討を行った。1-3) PMAでPBMCを刺激してcaspase-8のRNA スプライシングの変化

をRT-PCRとwestern blot法で検討し、SR蛋白質の発現変化をwestern blot法で検討した。

検討2) 着目するアポトーシス関連遺伝子の決定

2-1) PBMC(normal control, RA, 安定SLE:3症例, 急性増悪SLE:3症例)からtotal RNAを抽出しRT-PCRでRNA スプライシングの変化を検討した。さらに急性増悪SLEについてはSLEDAI, 抗ds-DNA抗体価、血清補体C4値及び血清サイトカインレベルRNA スプライシングの変化を治療経過に従って解析した。2-2)PBMCをサイトカイン(TNF α , IFN α)で刺激してcaspase-2, caspase-8, TRAILのSV発現誘導を検討した。

検討3) PBMC (ヒト末梢血単核球)でのRNA スプライシング変化の検討。

3-1) 健常者PBMCをPMAで刺激し、caspase-8 RNA スプライシング変化をRT-PCRで、caspase-8のスプライスヴァリエント(caspase-8L)の蛋白質発現変化とSR蛋白質のリン酸化状態変化及びその他の蛋白質発現変化をWestern blot法(WB法)で検討した。3-2)PMA刺激により誘導されるRNA スプライシング変化における、caspase-8の活性化を免疫蛍光染色法(IF)で、細胞周期の進展をFACSで、細胞周期制御因子の発現変化をWB法で、培養上清中のIL-2産生をELISAで検討した。3-3)PMA以外の刺激PWM(poke weed mitogen), PolyIC, LPS, IFN- α で健常者PBMCを刺激して、CD28, CTLA-4, caspase-8のRNA スプライシング変化、SR蛋白質のリン酸化を検討した。

検討4) 免疫抑制剤(ミゾリビン/MZR)によるcaspase-8のRNA スプライシング制御の検討。

4-1) 健常人リンパ球をPMAで刺激してcaspase-8のSVの発現をdownregulateしactiveなSLEと同様の状態にした。リンパ球刺激が減弱した寛解維持療法の状態を模して、PMAのwash outすることによりリンパ球刺激を減弱させた後にMZR(0.3~30 μ g/ml)を加えて培養を継続し(24~72時間)caspase-8のSV発現(RT-PCR)、CDKs/cyclin複合体の発現(WB)、splicing因子のリン酸(WB)を解析してMZRのスプラ

イシング制御に関与する作用機序を検討した(旭化成ファーマからの受託研究として実施、受託研究者:蒲池 誠)。

(倫理面への配慮)

対象者にはあらかじめ本研究の目的と方法を十分に説明し同意を得た。遺伝子解析についてもプロトコルを長崎大学遺伝子解析倫理委員会に提出し承認を得た(許可番号:0502020074, RNA スプライシングによる自己免疫疾患発症機序の解明と新規治療法の開発)。

C. 研究結果

検討1の結果)

1-1) エトポシド、スタウロスポリン、シクロヘキサミド刺激は複数のアポトーシス関連遺伝子の選択的スプライシングを誘導した(caspase-2: exon inclusion, caspase-8, Fas: intron retention, TRAIL:exon skipping)。シーケンシングによりこれらのスプライスヴァリエントはいずれもドミナントネガティブとなることを確認した。

1-2) Phosphatase 阻害剤は選択的スプライシングの誘導を用量依存性に抑制した。Ser/Thr phosphatase にはいくつかの subtype が存在するため、どの subtype が SV 誘導に関与するかを検討したところ subtype の PP-1 が主に関与することが明らかとなった。またこの PP-1 の活性化はセラミド合成の下流で起こることが明らかとなった。

1-3) PBMC は caspase-8 と caspase-8L の両者を発現しているが、スタウロスポリン刺激は caspase-8 の発現を時間依存性に抑制し、PMA 刺激はスタウロスポリン刺激とは逆に caspase-8L の発現を時間依存性に抑制した(RT-PCR, WB)。この変化に対応して SR 蛋白質である ASF/SF2 の hyperphosphorylation が観察された(WB)。

検討2の結果)

2-1) いずれの症例においても IL-2 の産生亢進は見られなかったが急性増悪 SLE3 症例ではいずれも IFN- α の産生が亢進しており、caspase-8 の alternative splicing が抑制されていた(RT-PCR)。免疫抑制療法

(ステロイドパルス療法及び CyA あるいは MZR 内服療法)は SLEDAI(10 から 1,7 から 1)、血清学的マーカー(抗 ds-DNA 抗体価、C4 値)を改善し caspase-8L の発現を回復させた。

2-2) TNF α , IFN α 刺激により caspase-2 の SV の発現に変化は無かったが caspase-8 の SV 発現は IFN α 刺激で低下した。TRAIL では TNF α 刺激によりドミナントネガティブ型の SV 発現が誘導された。

検討3の結果)

3-1) PMA 刺激は時間依存性に caspase-8 の alternative splicing と caspase-8L の蛋白質発現を抑制し、SR 蛋白質を時間依存性にリン酸化した。

3-2) PMA 刺激により caspase-8, caspase-3 の active form が誘導された。無刺激での PBMC は殆どが G1 期にあるが PMA 刺激により G1 期から S 期への細胞周期の進展が誘導された。PMA 刺激により caspase-8L の発現が低下し、CDK1, 2, 4, 6, cyclinA, B, D1, D2, D3 の発現が上昇し、P27 の発現が低下し、Rb のリン酸化が進行し、IL-2 の産生が亢進した。

3-3) PMA, PWM, PolyIC, LPS, IFN- α 刺激のいずれも CD28, CTLA-4, caspase-8 の alternative splicing を時間依存性に抑制し(RT-PCR)、SR 蛋白質を時間依存性にリン酸化し caspase-8L の蛋白質発現を抑制した(WB 法)。

検討4の結果)

1) PMA 刺激は caspase-8 の SV 発現を downregulate し、擬似血漿交換は SV 発現を軽度回復させたが、MZR 追加投与により容量依存性に SV 発現がさらに回復した(RT-PCR)。MZR(1.0 μ g/ml)で caspase-8 の SV 発現が時間依存性に回復した(RT-PCR)。

2) PMA 刺激により Rb がリン酸化されたが擬似血漿交換により Rb のリン酸化が消失した(WB)。MZR を追加投与することにより Rb の蛋白質発現が容量依存性に低下した(WB)。

3) PMA 刺激で Cyclin B, E の発現が増加したが、擬似血漿交換+MZR で Cyclin B, E の発現が有意に低下した。

4) p27 は PMA 刺激で顕著に低下した。P27 の発現回復は擬似血漿交換では軽度で、MZR 追加投与で発現が

顕著に回復した(WB)。

5) PMA 刺激により SR 蛋白質のリン酸化が促進するが、擬似血漿交換+MZR により SR 蛋白質のリン酸化レベルが減少した(WB)。

D. 考察

1) アポトーシス関連遺伝子の RNA スプライシングはシグナル伝達経路依存性に制御されており phosphatase と kinase の活性化のバランスが SR 蛋白質のリン酸化状態を決定して RNA スプライシング制御に関与することが示唆された。

2) Caspase-8 の SV の発現低下には SR 蛋白質の hyperphosphorylation が関与していることが示唆された。SR 蛋白質の hyperphosphorylation やこれに付随する caspase-8, CTLA-4, CD28 の SV 発現低下は PMA, PWM, PolyIC, LPS や IFN- α で誘導されることから TCR 以外の刺激でも RNA スプライシング変化が誘導されて遺伝子発現の fine tuning を行っていることが示唆された。

3) TRAIL では TNF α 刺激によりドミナントネガティブ型の SV が誘導され、これは TRAIL の immune surveillance に影響する可能性が示唆された。

4) G1 から S 期への細胞周期の進展には CDK2/cyclin E の活性化が必須である。Cyclin E の発現量低下は G1~S 期への細胞周期の進展阻止に寄与すると考えられた。CDK1/Cyclin B は G2 後期から活性化して M 期への進展に寄与するが、cyclin B の発現低下は G2~M 期への進展阻止に寄与すると考えられた。CDK1 や CDK2 の発現量に著明な変化は見られなかったが MZR 投与により CDK1, CDK2 の生理的インヒビターである p27 の発現が増加したことは、MZR は CDK1, CDK2 自体に対しても抑制的に作用することが示された。CDK1 には SR 蛋白質をリン酸化して RNA スプライシング制御に関与することから CDK1 とカップリングする cyclin B の発現は caspase-8 のスプライシング制御に関与することが示唆された。MZR 投与により p27 の発現が顕著に回復したことは MZR による CDKs/cyclin 複合体の活性制御が極めて生理的に行われていることを示唆している。このような生理的制御を支持しているメカニズムが他に存在すると考えられ、今後はその解明を行う必要がある。

E. 結論

MZR による CDKs/cyclin 複合体の活性制御はリンパ球の細胞周期進展を制御するだけでなくリンパ球活性化に関与する RNA スプライシング変化を調節する作用があり、寛解導入療法で有効に作用することが示唆された。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Kamachi M, Eguchi K et al. Activation of protein phosphatase causes alternative splicing of tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand (TRAIL): potential effect on immune surveillance. *Biochem Biophys Res Commun.* 360:280-285, 2007.
- 2) Hung M, Ida H, Arima K, Kamachi M, Eguchi K et al. La autoantigen translocates to cytoplasm after cleavage during granzyme B-mediated cytotoxicity. *Life Science.* 81:1461-1466, 2007.
- 3) Iwanaga N, Kamachi M, Eguchi K et al. Membranous glomerulonephritis and non-Hodgkin's lymphoma in a patients with primary Sjögren's syndrome. *Internal Med* ;46:191-194, 2007.
- 4) Izumi Y, Ida H, Huang M, Iwanaga N, Tanaka F, Aratake K, Arima K, Tamai M, Kamachi M, Nakamura H, Oroguchi T, Kawakami A, Anderson P, Eguchi K. Characterization of peripheral natural killer cells in primary Sjogren's syndrome: impaired NK cell activity and low NK cell number. *J Lab Clin Med.* 147 :242-249, 2006.
- 5) Tamai M, Kawakami A, Tanaka F, Miyashita T, Nakamura H, Iwanaga N, Izumui Y, Arima K, Aratake K, Huang M, Kamachi M, Ida H, Origuchi T, Eguchi K. Significant inhibition of TRAIL-mediated fibroblast-like synovial cell apoptosis by IFN-gamma through JAK/STAT pathway by translational regulation. *J Lab Clin Med.* 147:182-190, 2006.
- 6) Tanaka F, Kawakami A, Iwanaga N, Tamai M, Izumi Y, Aratake K, Arima K, Kamachi M, Nakamura H, Huang

M, Ida H, Origuchi T, Eguchi K Influximab is effective for Takayasu arteritis refractory to glucocorticoid and methotrexate. Intern Med. 45:313-316, 2006.

7) Tanaka F, Kawakami A, Tamai M, Nakamura H, Iwanaga N, Izumi Y, Arima K, Aratake K, Huang M, Kamachi M, Ida H, Origuchi T, Eguchi K. IFN-gamma /JAK /STAT pathway-induced inhibition of DR4 and DR5 expression on endothelial cells is cancelled by cycloheximide-sensitive mechanism: novel finding of cycloheximide -regulating death receptor expression. Int J Mol Med. 15:833-839, 2005.

8) Iwanaga N, Kamachi M, Aratake K, Izumi Y, Ida HTanaka F, Tamai M, Arima K, Nakamura H, Origuchi T, Kawakami A, Eguchi K. Regulation of alternative splicing of caspase-2 through an intracellular signaling pathway in response to pro-apoptotic stimuli. J Lab Clin Med. 145 :105- 110, 2005.

9) Aratake K, Kamachi M, Iwanaga N, Kawasaki E, Izumi Y, Ida H, Tanaka F, Tamai M, Arima K, Nakamura H, Origuchi T, Kawakami A, Eguchi K. A cross-talk between RNA splicing and signaling pathway alters Fas gene expression at post-transcriptional level: alternative splicing of Fas mRNA in the leukemic U937 cells. J Lab Clin Med. 146:184-191, 2005.

10) Huang M, Ida H, Kamachi M, Iwanaga N, Izumi Y, Tanaka F, Aratake K, Arima K, Tamai M, Hida A, Nakamura H, Origuchi T, Kawakami A, Ogawa N, Sugai S, Utz PJ, Eguchi K. Detection of apoptosis-specific autoantibodies directed against granzyme B-induced cleavage fragments of the SS-B (La) autoantigen in sera from patients with primary Sjogren's syndrome. Clin Exp Immunol. 142:148-154, 2005.

11) Tanaka F, Kawakami A, Tamai M, Nakamura H, Iwanaga N, Izumi Y, Arima K, Aratake K, Huang M, Kamachi M, Ida H, Origuchi T, Eguchi K. IFN-gamma /JAK /STAT pathway-induced inhibition of DR4 and DR5 expression on endothelial cells is cancelled by cycloheximide-sensitive mechanism: novel finding of cycloheximide -regulating death receptor expression. Int J Mol Med. 15:833-839, 2005.

総説

1) 蒲池 誠、江口勝美 細胞内シグナル伝達を介した alternative splicing の誘導:その生物学的意義と制御メカニズム、日本炎症再生医学会雑誌, 27:575-578, 2007.

2) 蒲池 誠、江口勝美 SR 蛋白質のリン酸化、脱リン酸化と alternative splicing 制御—SLE(全身性エリテマトーデス)における病態的意義と新規治療法への展望—、リウマチ科, 38:109-112, 2007.

2. 学会発表

1) Makoto Kamachi, Katsumi Eguchi, et al. Importance of intra- and intercellular signaling pathways in dual activation of NF- κ B and CDKs/Cyclin complexes associated with mRNA splicing (oral) (2007 年 日本免疫学会総会・学術記録集 第 37 巻 p146, 2-C-W22-6-0/P)

2) 蒲池 誠、江口勝美等 免疫細胞間ネットワークを介した刺激により誘導される caspase-8, CD28, CTLA-4 の alternative splicing の抑制とサイトカイン産生及びヒト T リンパ球活性化の検討(oral) 2007 年 第 51 回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 p257

3) 蒲池 誠、江口勝美等: Caspase-8 の RNA スプライシングとシグナル伝達経路のクロストーク:SLE での病態敵意義の検討 (plenary PL1-3: **第 50 回**日本リウマチ学会総会 (長崎) 2006 年 4 月 優秀演題) 第 50 回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 p19

4) 蒲池 誠、江口勝美等: RNA スプライシングによる遺伝子の可塑性:SLE における SR 蛋白質翻訳後修飾の役割 (Symposium S01-3: **第 50 回**日本リウマチ学会総会 (長崎) 2006 年 4 月) 第 50 回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 p23. Arthritis Rheum. 54(9) S754 2006.

5) 蒲池 誠、江口勝美等: RNA レベルでの遺伝子の可塑性: SR 蛋白質のリン酸化状態変化を介した caspase-8 の RNA スプライシング変化とヒトリンパ球の活性化、増殖での役割の検討 (一般口演: **第 27 回**日本炎症・再生医学会 (東京) 2006 年 7 月)

6) Makoto Kamachi, Katsumi Eguchi et al. Genomic

Plasticity of Caspase-8 Through mRNA Splicing : A Pathophysiological Role in Activation of Normal T Cells and SLE T Cells. (Poster: ACR 2006 annual scientific meeting in Washington DC Nov, 2006)

7)Makoto Kamachi, Katsumi Eguchi et al. Genomic plasticity of caspase-8 through mRNA splicing: a new insight into activation of normal T cells and SLE T cells. (oral presentation: 第 36 回日本免疫学会総会 (大阪) 2006 年 12 月) 日本免疫学会総会・学術記録集 第 36 巻 p104 1-I-W15-4-0/P,

8)岩永 希、蒲池 誠、江口勝美等：細胞内シグナル伝達経路を介した caspase-2 の alternative splicing の制御 (ポスター: 第 49 回日本リウマチ学会総会 (横浜) 2005 年 4 月)

9) 荒武浩一郎、蒲池 誠、江口勝美等：RNA スプライシングと細胞内シグナル伝達経路のクロストークによる Fas 遺伝子発現制御 (ポスター: 第 49 回日本リウマチ学会総会 (横浜) 2005 年 4 月)

10)蒲池 誠、江口勝美等、荒武浩一郎等：RNA スプライシングと細胞内シグナル伝達経路のクロストークによる caspase-8, TRAIL 遺伝子発現制御 (ポスター: 第 49 回日本リウマチ学会総会 (横浜) 2005 年 4 月)

11) 蒲池 誠、江口勝美等：フォスファターゼの活性化がアポトーシス関連遺伝子の選択的スプライシングを誘導する (一般口演: 第 26 回日本炎症・再生医学会 (東京) 2005 年 7 月)

12) 蒲池 誠、江口勝美等：F a s 遺伝子ドミナントネガティブを生み出す選択的スプライシング制御メカニズムの解明 (一般口演: 第 26 回日本炎症・再生医学会 (東京) 2005 年 7 月)

13)Makoto Kamachi, Katsumi Eguchi et al. Cross-Talk between RNA splicing and Signaling Pathway Alters Caspase-8 Gene Expression at a Post-Transcriptional Level in PBLs. (Poster: ACR 2005 annual scientific meeting in San Diego Nov, 2005) Arthritis Rheum. 52(9) S613 2005.

14)Makoto Kamachi, Katsumi Eguchi et al. RNA splicing of caspase-8 alters though signaling pathway: its pathophysiological role in SLE. (oral presentation: 第 35 回日本免疫学会総会 (横浜) 2005 年 12 月) 日本

免疫学会総会・学術記録集 第 35 巻 p195, 2-G-W29-1-0/P.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他
特になし

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表雑誌名	巻	頁	出版年
Yamaguchi Y, Fujio K, Shoda H, Okamoto A, <u>Yamamoto K</u>	IL-17B and IL-17C are associated with TNF-alpha production and contribute to the exacerbation of inflammatory arthritis.	J Immunol.	179	7128-36	2007
<u>Yamamoto K</u> , Okamoto A, Fujio K.	Antigen-specific immunotherapy for autoimmune diseases.	Expert Opin. Biol. Ther.	7	359-67	2007
Fujio K, Okamura T, Okamoto A, <u>Yamamoto K</u> .	T cell receptor gene therapy for autoimmune disease.	Ann N Y Acad Sci.	1110	222-32	2007
Shoda H, Fujio K, Yamaguchi Y, Okamoto A, Sawada T, Kochi Y, <u>Yamamoto K</u>	Interactions between IL-32 and tumor necrosis factor alpha contribute to the exacerbation of immune-inflammatory diseases.	Arthritis. Res. Ther.	8	R166	2006
Fujio K, Okamoto A, Araki Y, Tahara H, Tsuno NH, Takahashi K, Kitamura T, <u>Yamamoto K</u>	Gene therapy of arthritis with TCR isolated from the inflamed paw	J Immunol.	177	8140-47	2006
Kochi Y, <u>Yamada R</u> , Suzuki A, Harley JB, Shirasawa S, Sawada T, Bae SC, Tokuhira S, Chang X, Sekine A, Takahashi A, Tsunoda T, Ohnishi Y, Kaufman KM, Kang CP, Kang C, Otsubo S, Yumura W, <u>Mimori A</u> , Koike T, Nakamura Y, Sasazuki T, <u>Yamamoto K</u> .	A functional variant in FCRL3, encoding Fc receptor-like 3, is associated with rheumatoid arthritis and several autoimmunities.	Nature Genet.	37	478-485	2005
Nakagome K, Dohi M, Okunishi K, Komagata Y, Nagatani K, Nagatani K, Tanaka R, Miyazaki J, <u>Yamamoto K</u> .	In vivo IL-10 gene delivery suppresses airway eosinophilia and hyperreactivity by down-regulating APC functions and migration without impairing the antigen-specific systemic immune response in a mouse model of allergic airway inflammation ¹ .	J Immunol.	174	6955-66	2005
Shiratori I, Yamaguchi M, Suzukawa M, <u>Yamamoto K</u> , Lanier LL, Saito T, Arase H.	Down-regulation of basophil function by human CD200 and human herpesvirus-8 CD200.	J Immunol.	175	4441-4449	2005
Nagai T, Arinuma Y, Yanagida T, <u>Yamamoto K</u> , Hirohata S.	Anti-ribosomal P protein antibody in human systemic lupus erythematosus up-regulates the expression of proinflammatory cytokines by human peripheral blood monocytes.	Arthritis Rheum.	52	847-855	2005
Sagawa K, Nagatani K, Komagata Y, <u>Yamamoto K</u> .	Angiotensin receptor blockers suppress antigen-specific T cell responses and ameliorate collagen-induced arthritis in mice.	Arthritis Rheum.	52	1920-28	2005
Kanda H, Kubo K, Tateishi S, Sato K, Yonezumi A, <u>Yamamoto K</u> , <u>Mimura T</u> .	Antiproteinuric effect of ARB in lupus nephritis patients with persistent proteinuria despite immunosuppressive therapy.	Lupus.	14	288-92	2005
Sato K, Tateishi S, Kubo K, <u>Mimura T</u> , <u>Yamamoto K</u> , Kanda H.	Downregulation of IL-12 and a novel negative feedback system mediated by CD25+ CD4+ T cells.	Biochem Biophys Res Commun.	330	226-32	2005
Takizawa Y, Sawada T, Suzuki A, <u>Yamada R</u> , Inoue T, <u>Yamamoto K</u> .	Peptidylarginine deiminase 4 (PADI4) identified as a conformation-dependent autoantigen in rheumatoid arthritis.	Scand J Rheumatol.	34	212-15	2005

Okazaki Y, Sawada T, Nagatani K, Komagata Y, Inoue T, Muto S, Itai A, <u>Yamamoto K.</u>	Effect of Nuclear Factor- κ B Inhibition on Rheumatoid Fibroblast-like Synoviocytes and Collagen Induced Arthritis.	J Rheumatol.	32	1440-47	2005
Bohgaki T, <u>Atsumi T.</u> , Koike T.	Autoimmune disease after autologous hematopoietic stem cell transplantation.	Autoimmun Rev		in press	
Kataoka H, <u>Atsumi T.</u> , Hashimoto T, Horita T, Yasuda S, Koike T.	Polymyalgia rheumatica as the manifestation of unclassified aortitis.	Mod Rheumatol		in press	
<u>Atsumi T.</u> , Horita T, <u>Minori T.</u> , Koike T.	Exchange of information in Rheumatology between East and West : From Man'yo-shu to the Future.	Arthritis Rheum		in press	
Kon Y, <u>Atsumi T.</u> , Hagiwara H, Furusaki A, Kataoka H, Horita T, Yasuda S, Amengual O, Takao K.	Thrombotic microangiopathy in patients with phosphatidylserine dependent antiprothrombin antibodies and antiphospholipid syndrome.	Clin Exp Rheumatol		in press	
Koike T, <u>Atsumi T.</u>	"Resurrection of Thrombin" in the pathophysiology of the antiphospholipid syndrome.	Arthritis Rheum	56	393-4	2007
Amengual O, <u>Atsumi T.</u> , Komano Y, Kataoka H, Horita T, Yasuda S, Koike T.	A polymorphism in the Human Platelet Antigen 6b represents a risk factor for thrombocytopenia in patients with systemic lupus erythematosus.	Arthritis Rheum	56	2803-9	2007
Horita T, Ichikawa K, Kataoka H, Yasuda S, <u>Atsumi T.</u> , Koike T.	Human monoclonal antibodies against the complex of phosphatidylserine and prothrombin from patients with the antiphospholipid syndrome.	Lupus	16	509-16	2007
Yasuda S, Stevens RL, Terada T, Horita T, Kataoka H, Takeda M, Fukae J, <u>Atsumi T.</u> , Koike T.	Defective Expression of Ras Guanine Nucleotide Releasing Protein 1 in a Subset of Patients with Systemic Lupus Erythematosus.	J Immunol	179	4890-900	2007
Koike T, Bohgaki M, Amengual O, <u>Atsumi T.</u>	Antiphospholipid antibodies: lessons from the bench.	J Autoimmun	28	129-33	2007
<u>Atsumi T.</u>	Therapeutic targets for antiphospholipid syndrome.	Blood	110	4141	2007
Bohgaki T, <u>Atsumi T.</u> , Koike T.	Development of multiple autoimmune diseases after CD34+-selected autologous hematopoietic stem cell transplantation in a patient with systemic sclerosis.	N Engl J Med	357	2734-6	2007
Miyakis S, Lockshin MD, <u>Atsumi T.</u> , Branch DW, Brey RL, Cervera R, Derksen RHW, de Groot PG, Koike T, Meroni PL, Reber G, Shoenfeld Y, Tincani A, Vlachoyiannopoulos PG, Krilis SA.	International consensus statement on an update of the classification criteria for definite antiphospholipid syndrome.	J Thromb Haemost	4	295-306	2006
Mizumoto H, Maihara T, Hiejima E, Shiota M, Hata A, Seto S, <u>Atsumi T.</u> , Koike T, Hata D.	Transient antiphospholipid antibodies associated with acute infections in children: a report of three cases and a review of the literature.	Eur J Pediatr	165	484-8	2006
Furukawa S, Yasuda S, Amengual O, Horita T, <u>Atsumi T.</u> , Koike T.	Protective effect of pravastatin on vascular endothelium in patients with systemic sclerosis: a pilot study.	Ann Rheum Dis	65	1118-20	2006

Amengual O, <u>Atsumi T</u> , Koike T.	Pathophysiology of the antiphospholipid syndrome: roles of anticardiolipin antibodies in thrombosis and fibrinolysis.	APLAR J Rheumatol	9	377-86	2006
Furusaki A, Jodo S, Yamashita Y, Amasaki Y, <u>Atsumi T</u> , Koike T.	TRAIL-mediated cytotoxicity: Impact of sTRAIL and vTRAIL microvesicles.	J Biol Sci	6	150-9	2006
Yasuda S, <u>Atsumi T</u> , Matsuura E, Kaihara K, Yamamoto D, Ichikawa K, Koike T.	Significance of valine/leucine247 polymorphism of β 2-glycoprotein I in antiphospholipid syndrome: increased reactivity of anti- β 2-glycoprotein I autoantibodies to the valine247 β 2-glycoprotein I variant.	Arthritis Rheum	52	212-8	2005
Bertolaccini ML, <u>Atsumi T</u> , Koike T, Hughes GRV, Khamashta MA	Antiprothrombin antibodies detected in two different assay systems: prevalence and clinical significance in systemic lupus erythematosus.	Thromb Haemost	93	289-97	2005
Kumagai S, Kawano S, <u>Atsumi T</u> , Inokuma S, Okada Y, Kanai Y, Kaburaki J, Kameda H, Suwa A, Hagiyaama H, Hirohata S, Makino H, Hashimoto H.	Analysis of vertebral fracture and bone mineral density in women receiving high-dose glucocorticoids for treatment of autoimmune diseases.	J Rheumatol	32	863-9	2005
<u>Atsumi T</u> , Furukawa S, Koike T	Antiphospholipid antibody associated thrombocytopenia and the paradoxical risk of thrombosis.	Lupus	14	499-504	2005
Bohgaki T, Amasaki Y, Nishimura N, Bohgaki M, Yamashita Y, Nishio M, Sawada K, Jodo S, <u>Atsumi T</u> , Koike T.	Upregulated expression of tumour necrosis factor- α converting enzyme in peripheral monocytes in patients with early systemic sclerosis.	Ann Rheum Dis	64	1165-73	2005
Fukae J, Amasaki Y, Yamashita Y, Bohgaki T, Yasuda S, Jodo S, <u>Atsumi T</u> , Koike T.	Butyrate Suppresses Tumor Necrosis Factor- α (TNF- α) Production by Regulating Specific mRNA Degradation Mediated Through a cis-acting AU-rich Element.	Arthritis Rheum	52	2697-707	2005
Koike T, <u>Atsumi T</u>	Antiphospholipid Antibodies and Cell Activation -crucial role of p38 MAPK pathway-.	Lupus	14	799-801	2005
<u>Atsumi T</u> , Amengual O, Yasuda S, Matsuura E, Koike T	Research around beta2-glycoprotein I: a major target for antiphospholipid antibodies.	Autoimmunity	38	377-81	2005
Kasahara H, Matsuura E, Kaihara K, Yamamoto D, Kobayashi K, Inagaki J, Ichikawa K, Tsutsumi A, Yasuda S, <u>Atsumi T</u> , Yasuda T, Koike T.	Antigenic structures recognized by anti-beta2-glycoprotein I autoantibodies.	Int Immunol	17	1533-42	2005
Yasuda S, Bohgaki M, <u>Atsumi T</u> , Koike T.	Pathogenesis of antiphospholipid antibodies: impairment of fibrinolysis and monocyte activation via the p38 mitogen-activated protein kinase pathway.	Immunobiology	210	775-80	2005
Zhang MC, Mori S, Date F, Furukawa H, <u>Ono M</u> .	A non-MHC locus determines tissue-specificity in the pathogenic process underlying synovial proliferation in a mouse arthropathy model.	Ann Rheum Dis	66	242-245	2007
Misu N, Zhang MC, Mori S, Miyazaki T, Furukawa H, Sasaki T, <u>Nose M</u> , <u>Ono M</u> .	Autosomal loci associated with sex-related difference in the development of autoimmune phenotypes in a lupus model.	Eur J Immunol	37	2787-96	2007
Nakatani K, Qu WM, Zhang MC, Fujii H, Furukawa H, Miyazaki T, Iwano M, Saito Y, <u>Nose M</u> , <u>Ono M</u> .	A genetic locus controlling aging-sensitive regression of B lymphopoiesis in an autoimmune-prone MRL/lpr strain of mice.	Scand J Immunol	66	654-661	2007

Zhang MC, Misu N, Furukawa H, Watanabe Y, Terada M, Komori H, Miyazaki T, <u>Nose M</u> , and <u>Ono M</u> .	An epistatic effect of the female-specific loci on the development of autoimmune vasculitis and anti-nuclear autoantibody in murine lupus.	Ann Rheum Dis	65	495-500	2006
Saiga K, Toyoda E, Tokunaka K, Masuda A, Matsumoto S, Mashiba H, Kuramochi H, Nemoto K, Abe F, Kawagishi N, Furukawa H, and <u>Ono M</u> .	NK026680, a novel compound suppressive of dendritic cell function, ameliorates mortality in acute lethal graft-versus-host reaction in mice.	Bone Marrow Transplant	37	317-323	2006
Komori H, Furukawa H, Mori S, Ito MR, Terada M, Zhang MC, Ishii N, Sakuma N, <u>Nose M</u> , and <u>Ono M</u> .	A signal adaptor SLAM-Associated Protein regulates spontaneous autoimmunity and Fas-dependent lymphoproliferation in MRL-Faslpr lupus mice.	J Immunol	176	395-400	2006
Mori S, Zhang MC, Tanda N, Date F, <u>Nose M</u> , Furukawa H, and <u>Ono M</u> .	Genetic characterization of spontaneous ankylosing arthropathy with unique inheritance from Fas-deficient strains of mice.	Ann Rheum Dis	65	1273-78	2006
Yoshida M, Saiga K, Hato T, Iwaki S, Niiya T, Arita N, Komori H, Tsubaki T, Furukawa H, Terada M, Maeyama K, Nemoto K, <u>Nose M</u> , and <u>Ono M</u> .	Cappuccino mutation in an autoimmune-prone strain of mice suggested a role of platelet function in the progression of immune-complex crescentic glomerulonephritis.	Arthritis Rheum	54	2934-43	2006
Oka Y, Kameoka J, <u>Hirabayashi Y</u> , Takahashi R, Ishii T, <u>Sasaki T</u> , Harigae H.	Reversible Bone Marrow Dysplasia in Patients with Systemic Lupus Erythematosus.	Internal Medicine		in press	2008
<u>Hirabayashi Y</u> , Oka Y, Tada M, Takahashi R, Ishii T.	A potential trigger of nephritogenic anti-DNA antibodies in lupus nephritis.	Annals of the New York Academy of Sciences	1108	92-95	2007
Oka Y, <u>Hirabayashi Y</u> , Ishii T, Takahashi R, <u>Sasaki T</u> .	A monoclonal antibody against human homocysteine-induced endoplasmic reticulum protein (Herp): a useful tool for evaluating endoplasmic reticulum stress.	Tohoku J Exp Med	212	431-37	2007
Kudoh K, Shibata C, Funayama Y, Fukushima K, Takahashi K, Ogawa H, Sagami Y, <u>Hirabayashi Y</u> , Moriya T, Sasaki I.	Gastrojejunostomy and duodenojejunostomy for megaduodenum in systemic sclerosis sine scleroderma: report of a case.	Dig Dis Sci	52	2257-60	2007
岡友美子, 平林泰彦	ストレス蛋白と抗DNA抗体産生	臨床免疫・アレルギー科	47	517-22	2007
Chen S, Ishii N, Ine S, Ikeda S, Fujimura T, Ndhlovu LC, Soroosh P, Tada K, Harigae H, Kameoka J, Kasai N, <u>Sasaki T</u> , Sugamura K.	Regulatory T cell-like activity of Foxp3+ adult T cell leukemia cells.	International Immunology	18	269-77	2006
Fujiwara T, Harigae H, Takahashi S, Furuyama K, Nakajima O, Sun J, Igarashi K, Yamamoto M, Sassa S, Kaku M, <u>Sasaki T</u> .	Differential gene expression profiling between wild-type and ALAS2-null erythroblasts: Identification of novel heme-regulated genes.	Biochemical and Biophysical Research Communication	340	105-10	2006
Ohguchi H, <u>Hirabayashi Y</u> , Kodera T, Ishii T, Munakata Y, <u>Sasaki T</u> .	Q fever with clinical features resembling systemic lupus erythematosus	Internal Medicine	45	323-26	2006
Munakata Y, Kato I, Saito T, Kodera T, Ishii KK, <u>Sasaki T</u> .	Human parvovirus B19 infection of monocytic cell line U937 and antibody-dependent enhancement.	Virology	345	251-57	2006
平林泰彦	自己抗体と細胞ストレス:抗DNA抗体産生における小胞体ストレス応答性蛋白の役割	日本臨床免疫学会誌	29	65-72	2006

平林泰彦	抗DNA抗体産生における小胞体蛋白の意義	臨床免疫	45	650-55	2006
Fujiwara T, Ichinohasama R, Miura I, T.Sugawara, Harigae H, Yokoyama H, Takahashi S, Tohmiya Y, Yamada M, Ishizawa K, Kameoka J, <u>Sasaki T.</u>	Primary effusion lymphoma of the pericardial cavity carrying t(1;22)(q21;q11) and t(14;17)(q32;q23).	Cancer Genetics and Cytogenetics	156	49-53	2005
Takahashi S, Harigae H, Ishii KK, Inomata M, Fujiwara T, Yokoyama H, Ishizawa K, Kameoka J, Licht JD, <u>Sasaki T.</u> , Kaku M.	Over-expression of Flt3 induces NF- κ B pathway and increases the expression of IL-6.	Leukemia Research	29	893-99	2005
Takahashi S, Harigae H, Kameoka J, <u>Sasaki T.</u> , Kaku M.	AML1B transcriptional repressor function is impaired by the Flt3-internal tandem duplication.	British J Hematology	130	428-36	2005
Ohguchi H, Kameoka J, Harigae H, Yamada M, Tomiya Y, Takahashi S, Ishizawa K, Sano N, Sekine H, <u>Sasaki T.</u>	Can the Helicobacter pylori Eradication Regimen Induce Platelet Recovery in H.pylori-Negative Patients With Idiopathic Thrombocytopenic Purpura?	American J Hematology	78	164-65	2005
Munakata Y, Ito TS, Ishii KK, Jie H, Kodera T, Ishii T, <u>Hirabayashi Y.</u> , Koyanagi Y, <u>Sasaki T.</u>	Ku80 autoantigen as a cellular coreceptor for human parvovirus B19 infection.	Blood	106	3449-56	2005
Tazawa R, Hamano E, Arai T, Ohta H, Ishimoto O, Uchida K, Watanabe M, Saito J, Takeshita M, <u>Hirabayashi Y.</u> , Ishige I, Eishi Y, Hagiwara K, Ebina M, Inoue Y, Nakata K, Nukiwa T.	Granulocyte-macrophage colony-stimulating factor and lung immunity in pulmonary alveolar proteinosis.	American J Respiratory and Critical Care Medicine	171	1142-49	2005
Nishimoto N, Kanakura Y, Aozasa K, Johkoh T, Nakamura M, Nakano S, Nakano N, Ikeda Y, <u>Sasaki T.</u> , Nishioka K, Hara M, Taguchi H, Kimura Y, Kato Y, Asaoku H, Kumagai S, Kodama F, Nakahara H, Hagihara K, Yoshizaki K, Kishimoto T.	Humanized anti-interleukin-6 receptor antibody treatment of multicentric Castelman disease.	Blood	106	2627-33	2005
Munakata Y, Kodera T, Saito T, <u>Sasaki T.</u>	Rheumatoid arthritis, type 1 diabetes, and Graves' disease after acute parvovirus B19 infection.	Lancet	366	780	2005
Kadowaki I, Ichinohasama R, Harigae H, Ishizawa K, Okitsu Y, Kameoka J, <u>Sasaki T.</u>	Accelerated lymphangiogenesis in malignant lymphoma: possible role of VEGF-A and VEGF-C	British J Haematology	130	869-77	2005
Kamata Y, Takahashi Y, Iwamoto M, Matsui K, Murakami T, Muroi K, Ikeda U, Shimada K, Yoshio T, <u>Okazaki H</u> and <u>Minota S.</u>	Local implantation of autologous mononuclear cells from bone marrow and peripheral blood for treatment of ischaemic digits in patients with connective tissue diseases.	Rheumatology	46	882-84	2007
<u>岡崎仁昭</u>	リウマチ・膠原病患者の貧血の診かた	治療	89	2495-98	2007
<u>岡崎仁昭</u>	リウマチ性疾患に対するスタチンの効果とその機序	分子リウマチ	4	73-79	2007
<u>岡崎仁昭</u>	頻度の高い症状、関節痛	治療薬・治療指針 ポケットマニュアル 2007		96-100	2007

岡崎仁昭	免疫・アレルギー疾患、関節リウマチ	治療薬・治療指針 ポケットマニュアル 2007		461-65	2007
岡崎仁昭	免疫・アレルギー疾患、全身性エリテマトーデスとその合併症	治療薬・治療指針 ポケットマニュアル 2007		466-68	2007
岡崎仁昭	諸科にわたって使われる薬剤、消炎・鎮痛薬	治療薬・治療指針 ポケットマニュアル 2007		676-87	2007
岡崎仁昭	第2章 アレルギー・免疫疾患の主な症状。アレルギー・免疫疾患の診断。新体系 看護学全集22 成人看護学9 感染症アレルギー・免疫膠原病	メヂカルフレンド 社		141-46	2007
岡崎仁昭	第3章 アレルギー・免疫疾患の診断。新体系 看護学全集22 成人看護学9 感染症アレルギー・免疫膠原病	メヂカルフレンド 社		147-56	2007
岡崎仁昭	第4章 アレルギー・免疫疾患の主な治療法。新体系 看護学全集22 成人看護学9 感染症アレルギー・免疫膠原病	メヂカルフレンド 社		157-62	2007
岡崎仁昭	第5章 主なアレルギー・免疫疾患。新体系 看護学全集22 成人看護学9 感染症アレルギー・免疫膠原病	メヂカルフレンド 社		163-83	2007
Tajima S, Hironaka M, Nakazawa S, Bando M, Ohno S, Okazaki H, Saito K, Takada T, Suzuki E, Gejyo F, Sugiyama Y.	Alveolar hemorrhage in a patient with sarcoidosis.	Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis	23	236-37	2006
Kamata Y, Iwamoto M, Nara H, Kamimura T, Takayashiki N, Yamamoto H, Sugano K, Yoshio T, Okazaki H and Minota S.	A case of rheumatoid arthritis with protein losing enteropathy induced by multiple diaphragmatic strictures of the small intestine:successful treatment by bougieing under double-balloon enteroscopy.	GUT	55	1372	2006
Nagashima T, Okazaki H, et al.	Apoptosis of rheumatoid synovial cells by statins through the blocking of protein geranylgeranylation. A potential therapeutic approach to rheumatoid arthritis.	Arthritis Rheum	54	579-86	2006
Kamimura T, Hatakeyama M, Tirigoe K, Nara H, Kaneko N, Satou H, Yoshio T, Okazaki H and Minota S.	Muscular polyarteritis nodosa as a cause of fever of undetermined origin:a case report and review of the literature.	Rheumatol Int	25	394-97	2005
Kamata Y, Kamimura T, Haneda K, Masuyama J, Okazaki H and Minota S.	Striking fall of the arterial oxygen pressure induced by positional change in a case of systemic lupus erythematosus.	Lupus	14	641-42	2005
Iwanami K, Matsumoto I, Watanabe Y, Mihara M, Ohsugi Y, Mamura M, Goto D, Ito S, Tsutsumi A, Kishimoto T, Sumida T	Crucial role of IL-6/IL-17 cytokine axis in the induction of arthritis by glucose-6-phosphate-isomerase.	Arthritis Rheum		in press	
Kohno M, Tsutsumi A, Matsui H, Sugihara M, Suzuki T, Mamura M, Goto D, Matsumoto I, Ito S, Suguro T, Sumida T	Interleukin 17 gene expression in patients with rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol		in press	
Ishii W, Ito S, Kondo Y, Tsuboi H, Mamura M, Goto D, Matsumoto I, Tsutsumi A, Okoshi Y, Hasegawa Y, Kojima H, Sakashita S, Aita K, Noguchi M, Sumida T	Intravascular large B-cell lymphoma with acute abdomen as a presenting symptom in a patient with systemic lupus erythematosus.	J Clin Oncol		in press	

Kobayashi T, <u>Ito S</u> , Yasuda K, Kuroda T, <u>Yamamoto K</u> , Sugita N, Tai H, Narita I, Gejyo F, Yoshie H	The Combined Genotypes of Stimulatory and Inhibitory Fcγ Receptor Associated with Systemic Lupus Erythematosus and Periodontitis in Japanese	J Periodontology	78	467-74	2007
Kuroda T, <u>Hirose S</u> , Tanabe N, Sato H, Nakatsue T, Ajiro J, Wada Y, Murakami S, Hasegawa H, <u>Ito S</u> , Sakatsume M, Nakano M, Gejyo F	Mizoribine therapy for patients with lupus nephritis: the association between peak mizoribine concentration and clinical efficacy	Mod Rheumatol	17	206-12	2007
Enami T, Suzuki T, <u>Ito S</u> , Yoshimi A, Sugihara M, Mamura M, Hayashi T, Goto D, Matsumoto I, Tsutsumi A, Sumida T	Successful treatment of refractory thrombotic thrombocytopenic purpura with cyclosporine and corticosteroids in a patient with systemic lupus erythematosus and antibodies to ADAMTS13	Intern Med	46	1033-37	2007
伊藤 聡	Laser microdissection法による疾患発症関連分子解析の試み	分子リウマチ	4	63-67	2007
<u>Ito S</u> , Gross WL, Reinhold-Keller E, Gause A, Aries P, Ruether W, Mansoury T, Awad R, Badawy S, Murasawa A, Gejyo F	Rheumatology in Japan, Germany, and Egypt: Comparison of Medical Practices.	Acta Med Biol	54	51-58	2006
Tsutsumi A, Hayashi T, Chino Y, Goto D, Matsumoto I, <u>Ito S</u> , Sumida T	Significance of antiprothrombin antibodies in patients with systemic lupus erythematosus: clinical evaluation of the antiprothrombin assay and the antiphosphatidylserine/prothrombin assay, and comparison with other phospholipids antibody assays.	Mod Rheumatol	16	158-64	2006
Miyahara S, <u>Ito S</u> , Soeda A, Chino Y, Hayashi T, Takahashi R, Goto D, Matsumoto I, Tsutsumi A, Sumida T	Two cases of systemic lupus erythematosus complicated with colonic ulcers.	Intern Med	44	1298-1306	2005
Suzuki E, Hayashi T, <u>Ito S</u> , Miyazaki K, Yamazaki H, Machino T, Takahashi R, Chino Y, Goto D, Matsumoto I, Tsutsumi A, Sato Y, Sumida T	A Case of Pulmonary Hypertension Associated with Systemic Lupus Erythematosus without Anti-ribonucleoprotein Antibodies.	Acta Med Biol	53	87-93	2005
Yokota K, Miyoshi F, Miyazaki T, Sato K, Yoshida Y, Asanuma Y, Akiyama Y, <u>Mimura T</u> .	High Concentration Simvastatin Induces Apoptosis in Fibroblast-like Synoviocytes from Patients with Rheumatoid Arthritis.	J Rheumatol.	35	193-200	2008
Kanda H, Yokota K, Kohno C, Sawada T, Sato K, Yamaguchi M, Komagata Y, Shimada K, <u>Yamamoto K</u> , <u>Mimura T</u> .	Effects of low-dosage simvastatin on rheumatoid arthritis through reduction of Th1/Th2 and CD4/CD8 ratios.	Mod. Rheumatol.	17	364-68	2007
Keisuke Ishizawa, Daisuke Adachi, Kouetue Kuboi, Takashi Yamaguchi, Tomoko Mitsuhashi, Yoshihiko Shimizu, <u>Toshihide Mimura</u> , Shigetaka Nishimura, Michio Shimizu, Takanori Hirose	Multiple organ Involvement In eosinophilic polymyositis: an autopsy report.	Human Pathology	37	231-35	2006
Kazuhiro Yokota, Takashi Miyazaki, Motoharu Hirano, Yuji Akiyama, and <u>Toshihide Mimura</u>	Simvastatin Inhibits Production of Interleukin 6 (IL-6) and IL-8 and Cell Proliferation Induced by Tumor Necrosis Factor-α in Fibroblast-like Synoviocytes from Patients with Rheumatoid Arthritis.	J Rheumatol	33	463-71	2006
Keisuke Ishizawa, Daisuke Adachi, Kouetue Kuboi, Takashi Yamaguchi, Tomoko Mitsuhashi, Yoshihiko Shimizu, <u>Toshihide Mimura</u> , Shigetaka Nishimura, Michio Shimizu, Takanori Hirose	Multiple organ Involvement In eosinophilic polymyositis: an autopsy report.	Human Pathology	37	231-35	2006
Tsuzaka K, Itami Y, Kumazawa C, Suzuki M, Setoyama Y, Yoshimoto K, Suzuki K, Abe T, and <u>Takeuchi T</u> .	The conservative sequences in 3'UTR of TCRζ mRNA regulate the production of TCRζ and TCR/CD3 complex in SLE T cells.	BBRC	367	311-17	2008

Tsuzaka K, Matsumoto Y, Sasaki Y, Abe T, Tsubota K, and <u>Takeuchi T</u> .	Down-regulation of Fas-ligand mRNA Shogren' syndrome patients with enlarged exocrine glands.	Autoimmunity	40	497-502	2007
Ogawa H, Kameda H, Nagasawa H, Sekiguchi N, Takei H, Tsuzaka K, Amano K, and <u>Takeuchi T</u> .	Prospective study of low dose cyclosporine A in patients with refractory lupus nephritis.	Mod Rheum	17	92-97	2007
<u>Tanaka Y, Yamamoto K, Takeuchi T, Nishimoto N, Miyasaka N, Sumida T, Shima Y, Takada K, Matsumoto I, Saito K, and Koike T.</u>	A multicenter phase I/II trial of rituximab for refractory systemic lupus erythematosus.	Mod Rheum	17	191-97	2007
Kameda H, and <u>Takeuchi T</u> .	Platelet-Derived Growth Factor as a Therapeutic Target for systemic autoimmune diseases.	Drug Target Insight	2	1-9	2007
Suzuki K, Takei H, Kameda H, Nagasawa H, Sekiguchi N, Nishi E, Ogawa H, Tsuzaka K, Amano K, <u>Takeuchi T</u> .	Efficacy and Safety of Tacrolimus in Patients with rheumatoid arthritis in clinical practice: Significant role of blood concentration measurement for preventing severe adverse events.	Arthritis Rheum	S 35	CRC03	2007
Tsuzaka K, Nozaki K, Kumazawa C, Shiraishi K, Setoyama Y, Yoshimoto K, Suzuki K, Abe T, and <u>Takeuchi T</u> .	DNA microarray gene expression profile of T cells with splice variants of TCRz mRNA observed in SLE.	J Immunol	176	949-56	2006
Kameda H, Ishigami H, Suzuki M, Abe T, and <u>Takeuchi T</u> .	Imatinib mesylate inhibits proliferation of rheumatoid synovial fibroblast-like cells and phosphorylation of Gab adaptor proteins activated by platelet-derived growth factor.	Clin Exp Immunol	144	335-41	2006
Yoshimoto K, Takahashi Y, Ogasawara M, Setoyama Y, Suzuki K, Tsuzaka K, Abe T, and <u>Takeuchi T</u> .	Aberrant expression of BAFF in T cells of systemic lupus erythematosus, which is recapitulated by a human T cell line,	Loucy. Int Immunol	18	1189-96	2006
Kameda H, and <u>Takeuchi T</u> .	Recent advance in the treatment of interstitial lung disease in patients with polymyositis/dermatomyositis.	Endocrine, metabolic & Immune disorders- Drug Targets.	6	409-15	2006
Tsuzaka K, Nozaki K, Kumazawa C, Shiraishi K, Setoyama Y, Yoshimoto K, Abe T, and <u>Takeuchi T</u> .	TCRz mRNA splice variant forms observed in peripheral blood T cells from systemic lupus erythematosus patients.	Springer Seminars in Immunopathology	28	185-93	2006
<u>Takeuchi T, Tsuzaka T, Kameda H, and Amano K.</u>	Molecular abnormalities of T cells in systemic lupus erythematosus.	APLAR journal of Rheum	9	365-71	2006
Tsuzaka K, Setoyama Y, Yoshimoto K, Shiraishi K, Suzuki K, Abe T, and <u>Takeuchi T</u>	A splice variant of the TCRz mRNA lacking exon7 leads to the downregulation of the TCRz , TCR/CD3 complex and IL-2 production in systemic lupus erythematosus T cells.	J Immunol	174	3518-25	2005
<u>Takeuchi T, Tsuzaka K, Kameda H, and Amano K.</u>	Therapeutic targets in misguided T cells in systemic lupus erythematosus.	Current Drug Target	4	295-98	2005
Shiraishi K, Tsuzaka K, Abe T, and <u>Takeuchi T</u> .	Critical role of the 5th domain of E-cadherin for heterophilic adhesion with aEb7, but not for homophilic adhesion.	J Immunol	175	1014-21	2005
<u>Takeuchi T, Tsuzaka K, Abe T, Yoshimoto K, Shiraishi K, Kameda H, and Amano K.</u>	T cell abnormalities in systemic lupus erythematosus.	Autoimmunity	38	339-45	2005

Kameda H, Nagasawa H, Ogawa H, Sekiguchi N, Takei H, Tokuhira, Amano K, and Takeuchi T.	Combination therapy with corticosteroids, cyclosporine A and intravenous pulse cyclophosphamide for acute/subacute interstitial pneumonia in patients with dermatomyositis.	J Rheum	32	1719-26	2005
高橋裕子、森口正人、住永佳久、長汐千秋、狩野俊和、鈴木暁岳、国松淳和、浅尾りん、山下裕之、伊藤健司、三森明夫、	Segmental arterial mediolysisの一例	日臨免会誌	30	193-97	2007
Nakajima K, Itoh K, Nagatani K, Okawa-Takatsuji M, Fujii T, Kuroki H, Katsuragawa Y, Aotsuka S, <u>Mimori A</u>	Expression of BAFF and BAFF-R in the synovial tissue of patients with rheumatoid arthritis.	Scand J Rheumatol	36	365-72	2007
Nagatani K, Itoh K, Nakajima K, Kuroki H, Katsuragawa Y, Mochizuki, M Aotsuka S, <u>Mimori A</u>	Rheumatoid arthritis fibroblast-like synoviocytes express BCMA and are stimulated by APRIL.	Arthritis Rheum	56	3554-63	2007
Okawa-Takatsuji M, Nagatani K, Nakajima K, Itoh K, Kano T, Nagashio C, Takahashi Y, Aotsuka S, <u>Mimori A</u>	A: Recruitment of immature neutrophils in peripheral blood following leukocytapheresis therapy for rheumatoid arthritis.	J Clin Apheresis	22	323-29	2007
Soejima M, Sugiura T, Kawaguchi Y, Kawamoto M, Katsumata Y, Takagi K, Nakajima A, Mitamura T, <u>Mimori A</u> , Hara M, and Kamatani N	Association of the diplotype configuration at the N-acetyltransferase 2 gene with adverse events with co-trimoxazole in Japanese patients with systemic lupus erythematosus.	Arthritis Res Ther	9	R23	2007
Itoh K, Kano T, Nagashio C, <u>Mimori A</u> , Kinoshita M, Sumiya M.	Progressive multifocal leukoencephalopathy in patients with systemic lupus erythematosus.	Arthritis Rheum.	54	1020-22	2006
Aotsuka S, Okawa-Takatsuji M, Nagatani K, Nagashio C, Kano T, Nakajima K, Ito K, <u>Mimori A</u>	A retrospective study of the fluctuation in serum levels of anti-cyclic citrullinated peptide antibody in patients with rheumatoid arthritis.	Clin Exp Rheumatol.	23	475-81	2005
Sato S, <u>Takada T</u> , Katsuki Y, Kimura N, Kaneko Y, Suwa A, <u>Hirakata M</u> , Kuwana M.	Longterm effect of intermittent cyclical etidronate therapy on corticosteroid-induced osteoporosis in Japanese patients with connective tissue disease: 7-year followup.	J. Rheumatol.	35	142-46	2008
Sato, S., Kuwana, M., and <u>Hirakata, M.</u>	Clinical characteristics of Japanese patients with anti-OJ (anti-Isoleucyl-tRNA Synthetase) autoantibodies.	Rheumatology	46	842-45	2007
<u>Hirakata, M.</u> , Suwa, A., Takada, T., Sato, S., Nagai, S., Genth, E., Song, Y.W., Mimori, T., and Targoff, I.N.	Clinical and immunogenetic features of patients with autoantibodies to asparaginyl-transfer RNA synthetase.	Arthritis Rheum.	56	1295-303	2007
諏訪昭、長谷川直樹、 <u>平形道人</u> 、齋藤栄子、若林孝幸、鈴木康夫	結核感染の新しい診断法: 全血インターフェロン γ 応答測定法のリウマチ性疾患への応用.	リウマチ科	37	191-96	2007
<u>平形道人</u> 、金子祐子	診断ビットフォール-症例から学ぶ-IV膠原病/筋痛.	内科	99	1293-300	2007
<u>平形道人</u>	多発性筋炎・皮膚筋炎における自己抗体と発症機序.	分子リウマチ	4	69-76	2007
<u>平形道人</u>	抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体とその臨床的意義.	リウマチ科	38	478-85	2007

白井悠一郎, 小泉加奈子, 小川理絵, 鈴木貴博, 小井戸則彦, 大曾根康夫, 秋月哲史, 高田哲也, 平形道人, 石原傳幸	抗signal recognition particle (SRP)抗体が検出されたステロイド療法抵抗性多発性筋炎の一例.	日本内科学会雑誌	96	2522-24	2007
金子祐子, 平形道人	多発性筋炎に対するタクロリムスの効果.	リウマチ科	38	556-60	2007
平形道人	多発性筋炎・皮膚筋炎における自己抗体とその臨床免疫学的意義.	日本臨床免疫学会雑誌	30	444-54	2007
Kaneko, Y., Suwa, A., Ikeda, Y., and Hirakata, M.	Pneumocystis jiroveci pneumonia associated with low-dose methotrexate treatment for rheumatoid arthritis: report of two cases and review of the literatures.	Mod. Rheumatol.	16	36-38	2006
Nakamura, M., Tanaka, Y., Satoh, T., Kawai, M., Hirakata, M., Kaburaki, J., Kawakami, Y., Ikeda, Y., and Kuwana, M.	Autoantibody to CD40 ligand in systemic lupus erythematosus: association with thrombocytopenia but not thromboembolism.	Rheumatology	45	150-56	2006
平形道人	自己抗体陽性者に対する対処法および自己抗体の臨床的意義.	内科	97	583-90	2006
平形道人	膠原病の肺病変(間質性肺炎)-活動性の評価, 治療.	Medical Practice	23	629-33	2006
平形道人	皮膚筋炎にみられる特徴的皮疹/ヘリオトロープ疹・ゴットロン徴候.	成人病と生活習慣病	36	473-75	2006
平形道人	抗Jo-1抗体およびその他の抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体.	リウマチ科	36	32-38	2006
平形道人	膠原病診療のポイント: 多発性筋炎/皮膚筋炎.	診断と治療	94	1882-88	2006
平形道人	抗Jo-1抗体.	日本医師会雑誌, 「生涯教育リソース70/最新臨床検査のABC」	135 特別号	301	2006
Sato, S., Hirakata, M., Kuwana, M., Suwa, A., Inada, S., Mimori, T., Nishikawa, T., Oddis, C.V., and Ikeda, Y.	Autoantibodies to a 140-kd polypeptide, CADM-140, in Japanese patients with clinically amyopathic dermatomyositis.	Arthritis Rheum.	52	1571-76	2005
Hirakata, M.	Anti-aminoacyl tRNA synthetase autoantibodies.	Internal Med.	44	527-28	2005
Okada, T., Noji, S., Goto, Y., Iwata, T., Fujita, T., Okada, T., Matsuzaki, Y., Kuwana, M., Hirakata, M., Horii, A., Matsuno, S., Sunamura, M., and Kawakami, Y.	Immune responses to DNA mismatch repair enzymes hMSH2 and hPMS1 in patients with pancreatic cancer, dermatomyositis and polymyositis.	Int. J. Cancer.	116	925-33	2005
Sato, S., Hirakata, M., Kuwana, M., Suwa, A., Inada, S., Mimori, T., Nishikawa, T., Oddis, C.V., and Ikeda, Y.	Clinical characteristics of Japanese patients with anti-PL-7 (anti-threonyl-tRNA synthetase) autoantibodies.	Clin. Exp. Rheumatol.	23	609-15	2005

Kaneko, Y., Tanaka, K., Yoshizawa, A., Yasuoka, H., Suwa, A., Satoh, T., Iwanaga, S., Ogawa, S., Ikeda, Y., and Hidakata, M.	Successful treatment of recurrent intracardiac thrombus in Behcet's disease with immunosuppressive therapy.	Clin. Exp. Rheumatol.	23	885-87	2005
平形道人	多発性筋炎・皮膚筋炎.	日本医師会雑誌「生涯教育シリーズ67/ わかりやすい免疫疾患」	134 特別号	183-87	2005
香月有美子, 平形道人	抗Jo-1抗体(ヒスチジルtRNA合成酵素抗体).	日本臨床	増刊 7	505-507	2005
平形道人	抗PL-7抗体, 抗PL-12抗体およびその他の抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体抗体.	日本臨床	増刊 7	508-511	2005
平形道人	診療の秘訣-多発性筋炎・皮膚筋炎の診療に際して.	Modern Physician	25	1444-45	2005
平形道人	私の処方-多発性筋炎・皮膚筋炎.	Modern Physician	25	1595	2005
Takada K, J Kishi, N Miyasaka.	Step-up versus primary intensive approach to the treatment of interstitial pneumonia associated with dermatomyositis/polymyositis: a retrospective study.	Mod Rheumatol	17	123-30	2007
Takada K., K. Nagasaka, N. Miyasaka.	Polymyositis/Dermatomyositis and interstitial lung disease; A new therapeutic approach with T-cell-specific immunosuppressants.	Autoimmunity	38	383-92	2005
Amano H, Furuhashi N, Tamura N, Tokano Y, Takasaki Y.	Hypocomplementemic Urticarial Vasculitis with Jaccoud's Arthropathy and Valvular Heart Disease (case report and review of the literature)	Lupus		in press	2008
Nakano S, Morimoto S, Suzuki J, Nozawa K, Amano H, Tokano Y, Takasaki Y	Role of pathogenic auto-antibody production by Toll-like receptor 9 of B cells in active systemic lupus erythematosus.	Rheumatology (Oxford)	47	145-9	2008
Watanabe T, Suzuki J, Mitsuo A, Nakano S, Tamayama Y, Katagiri A, Amano H, Morimoto S, Tokano Y, Takasaki Y.	Striking alteration of some populations of T/B cells in systemic lupus erythematosus: relationship to expression of CD62L or some chemokine receptors.	Lupus.	17	26-33	2008
Nakano S, Morimoto S, Suzuki J, Mitsuo A, Nakiri Y, Katagiri A, Nozawa K, Amano H, Tokano Y, Hashimoto H, Takasaki Y.	Down-regulation of CD72 and increased surface IgG on B cells in patients with lupus nephritis.	Autoimmunity.	40	9-15	2007
Morimoto S, Nakano S, Watanabe T, Tamayama Y, Mitsuo A, Nakiri Y, Suzuki J, Nozawa K, Amano H, Tokano Y, Kobata T, Takasaki Y.	Expression of B-cell activating factor of the tumour necrosis factor family (BAFF) in T cells in active systemic lupus erythematosus: the role of BAFF in T cell-dependent B cell pathogenic autoantibody production	Rheumatology	46(7)	1083-6	2007
Nakiri Y, Minowa K, Suzuki J, Mitsuo A, Amano H, Morimoto S, Tokano Y, Takasaki Y.	Expression of CD22 on peripheral B cells in patients with rheumatoid arthritis: relation to CD5-positive B cells.	Clin Rheumatol.	26	1721-3	2007
Kikuchi S, Santiago-Raber ML, Amano H, Amano E, Fossati-Jimack L, Moll T, Kotzin BL, Izui S	Contribution of Nba2 to Yaa-induced monocytophagocytosis in association with murine systemic lupus.	J Immunol.	176	3240-7	2006

Suzuki J, Nakano S, Nakairi Y, Mitsuo A, <u>Amano H</u> , Morimoto S, Tokano Y, Takasaki Y.	CD19/22 balance relates to improvement of disease activity in systemic lupus erythematosus.	Mod Rheumatol.	16	235-8	2006
Lin Q, Xiu Y, Jiang Y, Tsurui H, Nakamura K, Kodera S, Ohtsuji M, Ohtsuji N, Shirowa W, Tsukamoto K, <u>Amano H</u> , Amano E, Kinoshita K, Sudo K, Nishimura H, Izui S, Shirai T, <u>Hirose S</u> .	Genetic dissection of the effects of stimulatory and inhibitory IgG Fc receptors on murine lupus.	J Immunol.	1;17 7	1646-54	2006
天野清文	全身性エリテマトーデス(SLE)モデルマウスにおける末梢血の単球増加のメカニズムと病態形成との関わり	順天堂医学	52	368-75	2006
Moll T, Martinez-Soria E, Santiago-Raber ML, <u>Amano H</u> , Pihlgren-Bosch M, Marinkovic D, Izui S	Differential activation of anti-erythrocyte and anti-DNA autoreactive B lymphocytes by the Yaa Mutation.	J Immunol	15;1 74	702-9	2005
Kikuchi S, Fossati-Jimack L, Moll T, <u>Amano H</u> , Amano E, Ida A, Ibnou-Zekri N, Laporte C, Santiago-Raber ML, Rozzo SJ, Kotzin BL, Izui S	Differential role of three major new zealand black-derived Loci linked with Yaa-induced murine lupus nephritis.	J Immunol	15;1 74	1111-7	2005
<u>Amano H</u> , Amano E, Kikuchi S, Fossati-Jimack L, Santiago-Raber ML, Moll T, Ida A, Kotzin BL, Izui S	Identification of 2 major loci linked to autoimmune hemolytic anemia in NZB mice.	Blood.	106	1323-9	2005
<u>Amano H</u> , Amano E, Santiago-Raber ML, Moll T, Martinez-Soria E, Fossati-Jimack L, Iwamoto M, Rozzo SJ, Kotzin BL, Izui S	Selective expansion of a monocyte subset expressing the CD11c dendritic cell marker in the Yaa model of systemic lupus erythematosus.	Arthritis Rheum.	52	2790-8	2005
Tokano Y, Morimoto S, <u>Amano H</u> , Kawanishi T, Yano T, Tomyo M, Sugawara M, Kobayashi S, Tsuda H, Takasaki Y, Hashimoto H	The relationship between initial clinical manifestation and long-term prognosis of patients with systemic lupus erythematosus.	Mod Rheumatol	15	275-282	2005
<u>Amano H</u> , Amano E, Rin S, Nakano S, Tokano Y, <u>Hirose S</u> , Takasaki Y, Izui S	Defective development of monocytoisis in BXSb FcRg ^{-/-} mice.	Arthritis Rheum	52	S483	2005
Tsukamoto H, Ohtsuji M, Shirowa W, Lin Q, Nakamura K, Tsurui H, Jiang Y, <u>Sudo K</u> , Nishimura H, Shirai T, and <u>Hirose S</u> .	Aberrant genetic control of invariant TCR-bearing NKT cell function in New Zealand mouse strains: possible involvement in SLE pathogenesis.	J. Immunol.		in press	2008
Nakamura K, Hirai H, Torashima T, Miyazaki T, Tsurui H, Xiu Y, Ohtsuji M, Qing Shun Lin Q, Tsukamoto K, Nishimura H, Ono M, Watanabe M <u>Hirose S</u> .	CD3 and IgG Fc receptor regulate cerebellar functions.	Mol. Cell. Biol.	27	5128-34	2007
林 青順、 <u>広瀬幸子</u>	全身性自己免疫疾患とFcγレセプターによる免疫反応の正と負の調節	臨床免疫・アレルギー科	47	545-50	2007
Nakamura K, Sugawara Y, Sawabe K, Ohashi A, Tsurui H, Xiu Y, Ohtsuji M, Lim Q, Nishimura H, Hasegawa H, <u>Hirose S</u> .	Late developmental stage-specific role of tryptophan hydroxylase 1 in brain serotonin levels.	J. Neuroscience	26	530-34	2006
Hamano Y, Tsukamoto K, Abe M, Sun G, D, Zhang D, Fujii H, Matsuoka S, Tanaka M, Ishida-Ogawara A, Tachikawa H, Nishimura H, Tokunaga K, <u>Hirose S</u> , Suzuki K.	Genetic dissection of vasculitis, myeloperoxidase-specific antineutrophil cytoplasmic autoantibody production, and renal traits in spontaneous crescentic glomerulonephritis-forming/Kinjo mice.	J. Immunol.	176	3662-73	2006
Lin Q, Xiu Y, Jiang Y, Tsurui H, Nakamura K, Kodera S, Ohtsuji M, Ohtsuji N, Shirowa W, Tsukamoto K, <u>Amano H</u> , Amano E, Kinoshita K, <u>Sudo K</u> , Nishimura H, Izui S, Shirai T, <u>Hirose S</u> .	Genetic Dissection of the Effects of Stimulatory and Inhibitory IgG Fc Receptors on Murine Lupus.	J. Immunol.	177	1646-54	2006

<u>Hirose S</u> , Jiang Y, Nishimura H, Shirai T.	Significance of MHC class II haplotypes and IgG Fc receptors in SLE.	Springer Seminars in Immunopathol.	28	163-74	2006
Shirai T, <u>Hirose S</u> .	Molecular pathogenesis of SLE.	Springer Seminars in Immunopathol.	28	79-82	2006
Nakamura K, Koyama Y, Takahashi K, Tsurui H, Xiu Y, Ohtsuji M, Lin Q, Sugawara Y, Sawabe K, Ohashi A, Ohnuma T, Arai H, Nishimura H, Hasagawa H, <u>Hirose S</u> .	Requirement of tryptophan hydroxylase during development for maturation of sensorimotor gating.	J. Mol. Biol.	363	345-54	2006
Fujii T, Iida Y, Yomogida M, Ikeda K, Haga T, Jikumaru Y, Ninami M, Nishimura N, Kodera Y, Inada Y, Shirai T, <u>Hirose S</u> , Nishimura H.	Genetic control of the spontaneous activation of CD4 ⁺ Th cells in systemic lupus erythematosus-prone (NZB x NZW) F1 mice.	Genes Immun.	7	647-54	2006
Shiroiwa W, Tsukamoto K, Ohtsuji M, Lin Q, Ida A, Kodera S, Ohtsuji Nishimura H, Tsurui H, Kinoshita K, Nishimura H, Shirai T, <u>Hirose S</u> .	IL-4Ra polymorphism in regulation of IL-4 synthesis by T cells: implication in susceptibility to a subset of murine lupus.	Int. Immunol.	19	175-83	2006
Suzuki H, Suzuki Y, Yamanaka T, <u>Hirose S</u> , Nishimura H, Toei J, Horikoshi S, Tomino Y.	Genome-wide scan in novel IgA nephropathy model identifies susceptibility locus on murine chromosome 10, in a region syntenic to human IGAN1 on chromosome 6q22-23.	J. Am. Soc. Nephrol.	16	1289-99	2005
Shike T, Gohda T, Tanimoto M, Kobayashi M, Makita Y, Funabiki K, Horikoshi, <u>Hirose S</u> , Shirai T, Tomino Y.	Chromosomal mapping of a quantitative trait locus for the development of albuminuria in diabetic KK/Ta mice.	Nephrol. Dial. Transplant.	20	879-85	2005
Mehmut M, Takeda K, Abe M., Ogara H, <u>Hirose S</u> , Okumura K, Fujime M.	Fas ligand and TNF-related apoptosis-inducing ligand induction on infiltrating lymphocytes in bladder carcinoma by bacillus Calmette-Guein treatment.	Urol. Int.	75	80-87	2005
Qi Z, Wang J, Sun Z, Ma F, Zhang Q, <u>Hirose S</u> , Jiang Y.	Polymorphism of the mouse gene for the interleukin 10 receptor alpha chain (Il10ra) and its association with the autoimmune phenotype.	Immunogenetics	57	697-702	2005
Nakamura K, Nishimura H, <u>Hirose S</u> .	Correlation of aggression with serum IgM level in autoimmune-prone NZB mice.	Dev. Brain Res.	159	145-48	2005
杉田玄、鶴井博理、藤森正登、榎本冬樹、池田勝久、東みゆき、広瀬幸子	口蓋扁桃体中心における新規共刺激分子とそのレセプターの発現に関する組織学的、細胞学的解析	日本耳鼻咽喉科学会会報	108	31-37	2005
<u>Yamamoto, K. & Yamada, R.</u>	Lessons from a Genomewide Association Study of Rheumatoid Arthritis.	N Engl J Med	357	1250-51	2007
<u>Yamada, R. & Yamamoto, K.</u>	Mechanisms of disease: genetics of rheumatoid arthritis--ethnic differences in disease-associated genes.	Nat Clin Pract Rheumatol	3	644-50	2007
Suzuki, A., <u>Yamada, R. & Yamamoto, K.</u>	Citrullination by peptidylarginine deiminase in rheumatoid arthritis.	Ann N Y Acad Sci	1108	323-39	2007
<u>Yamada R & Matsuda.F</u>	A novel method to express SNP-based genetic heterogeneity, Ψ, and its use to measure linkage disequilibrium for multiple SNPs, Dg, and to estimate absolute maximum of haplotype frequency.	Genetic Epidemiology	31	709-26	2007